

総説

北茨城市の沿革

古代の当地方の人々は、採集、狩猟、漁労に都合のよい台地上に居住していたことが市内から出土する遺物によって知ることができる。

平安時代中期、武士が勃興すると当地方は佐竹氏の支配下におかれた。室町時代中期以降も佐竹氏あるいは、隣接する岩城氏の支配下におかれたが、江戸時代に入ると当地方は水戸藩領、棚倉藩領、天領、旗本領とが入り組み、明治維新まで続いた。

この間、封建時代の経済基盤である農業については、松井村（中郷町）の沼田主計らが、かんがい用水路の工事を行い新田開発等の振興策が図られた。又、平潟港は寛永年間に仙台藩主の伊達氏が江戸へ年貢米運送の寄港地として港を整備した。その後 1670 年（寛文 10 年）に河村瑞軒が幕命により仙台－江戸間の東廻り航路の刷新を行うとその寄港地に指定されて平潟港は大いに発展した。

1851 年（嘉永 4 年）、上小津田村（華川町）の神永喜八が塩ノ平、芳ノ目などで露頭炭の採掘に着手した。これが常盤炭田開発の始まりとなり、当地方の発展に一大変革をもたらした。

1868 年（明治元年）、平潟に輪王寺宮（北白川宮）が旧幕府軍とともに上陸し会津に向かう。

その後、新政府軍が平潟に上陸し、平潟口総督府を設置する。

明治期に入り磯原地区は、石炭産業を中心に商業が繁栄し、当地方の中核として発展を続け、中郷、関本、華川地区は農業と恵まれた資源を利用した林業や炭鉱を中心として発展してきた。また、関南地区は陸前浜街道の宿場町と農業を主に発展し、大津地区は古くから漁業を基盤に水産業、水産加工業、商業の町として栄え、平潟地区は物資の積出し、廻船の寄港地として大いに隆盛をみた。

1888 年（明治 21 年）、町村制の公布により 35 ヶ所がそれぞれまとまって南中郷村、北中郷村、華川村、関南村、関本村、大津町、平潟町の 2 町 5 カ村となり近代自治制度の基盤が確立された。1925 年（大正 14 年）になると北中郷村が町制をしき、磯原町と改称した。

さらに、1953 年（昭和 28 年）町村合併促進法が公布されると、産業、地形、習慣、文化、経済など多くの特性を持っている町村内で地域相互が連携し一つの生活圈・経済圏を形成して総合的な開発、発展する都市づくりを目指そうとする気運が高まった。1955 年（昭和 30 年）には磯原町と華川村が合併し磯原町となり、さらに翌 1956 年（昭和 31 年 3 月 31 日）には 6 カ町村が合併し、市制が施行され県下 15 番目の市として北茨城市が誕生した。

市 勢

1. 位 置

市役所所在地

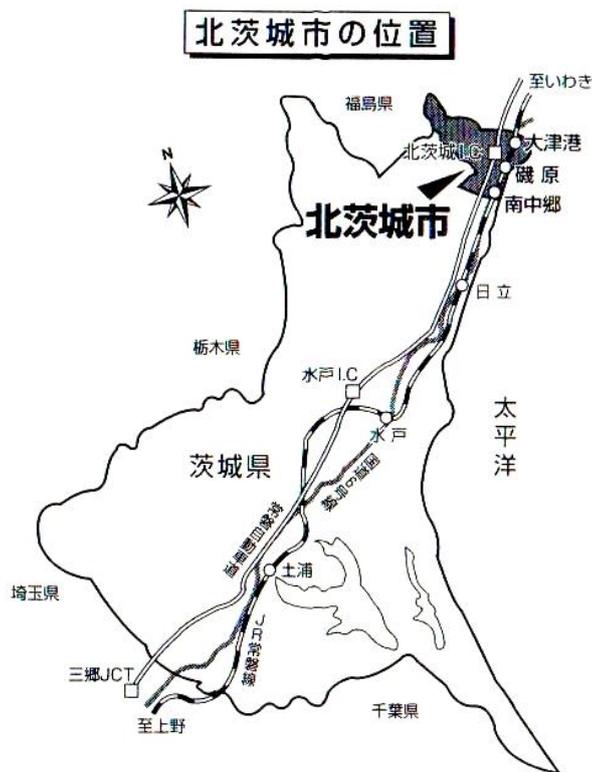
東 経 140° 45' 16"

北 緯 36° 47' 57"

消防本部所在地

東 経 140° 44' 47"

北 緯 36° 47' 04"



●位置と面積

本市は、茨城県の最北部にあり、首都東京からは、東北に180kmの地点で、東西およそ24km、南北22km、その総面積は186.80㎢となっている。

また、市域の西に、阿武隈高地が南北に連なり、その支脈を水源とする、大北川、塩田川、里根川などの各河川が太平洋に注いでいる。これらの河川の地域には、豊かな平坦地がひらけている。

主要な交通機関として、鉄道にはJR常磐線の南中郷・磯原・大津港の三駅を有している。

道路には国道6号線及び高速自動車道である常磐高速道が南北に走っており、市の中心部に北茨城インターチェンジを有している。

2. 人口の推移

(平成31年4月1日現在)

	人口 (人)	世帯数	男 (人)	女 (人)	1 km ² 当りの人口
平成24年	45,833	16,838	22,604	23,229	246
平成25年	45,082	16,875	22,233	22,849	242
平成26年	44,471	16,909	21,942	22,529	238
平成27年	43,921	16,919	21,731	22,190	235
平成28年	43,997	16,818	21,768	22,229	236
平成29年	43,371	16,856	21,461	21,910	232
平成30年	42,778	16,829	21,160	21,628	229
平成31年	42,266	16,875	20,992	21,274	226

北茨城市消防の沿革

昭和 31 年	3 月 31 日	磯原町・大津町・南中郷村・関南村・関本町・平潟町の 6 町村の合併による北茨城市が誕生した。 北茨城市連合消防団 6 支団 42 分団 1,334 名をもって組織される。 初代消防団長に 杉本 次平 就任
昭和 33 年	2 月 4 日	消防団相互応援協定を高萩市と締結する。
昭和 36 年	1 月 15 日 6 月 22 日	消防団の機構改革が行われ支団制を廃止、19 分団 827 名となる。 消防団長に 杉本 次平 再任され副団長 6 名となる。 2 代消防団長に 鈴木 丙午 就任
昭和 40 年	6 月 21 日	3 代消防団長に 吉田 正吉 就任
昭和 41 年	4 月 20 日	消防団相互応援協定を勿来市と締結する。(昭和 61 年 4 月 1 日廃止)
昭和 42 年	8 月 5 日	消防団相互応援協定をいわき市勿来消防団と締結する。
昭和 43 年	4 月 1 日 6 月 1 日 6 月 27 日 8 月 1 日 8 月 6 日 9 月 1 日 9 月 24 日 12 月 16 日	北茨城市消防本部が設置される。 初代消防長事務取扱に北茨城市長 豊田 実 就任 消防職員 18 名採用 2 代消防長に 赤津 佐光 就任 初代消防署長に 赤津 佐光 就任 消防本部へ広報車 (1968 年トヨタ RS56) を配置する。 消防本部及び消防署が開庁する (市役所庁舎内) 救急業務開始 (広報車併用) 消防署に救急自動車 (トヨタ FS55V) を配置する。 消防署に水槽付消防ポンプ自動車 (いすゞ TXG10) を配置する。
昭和 44 年	4 月 1 日 6 月 10 日 7 月 8 日 8 月 7 日	消防職員 12 名採用 4 代消防団長に 増田 松雄 就任 茨城県総合防災訓練実施 消防署に消防ポンプ自動車 (トヨタ FJ55V) を配置する。
昭和 45 年	2 月 7 日 2 月 20 日 3 月 7 日 4 月 1 日 6 月 1 日 10 月 1 日	5 代消防団長に 今井 亨二 就任 消防団日本消防協会より表彰旗受賞する。 消防本部消防署 (現) 庁舎落成式 消防職員 4 名採用 消防職員 1 名採用 消防団員の縮小が施行される。545 名となる。
昭和 46 年	8 月 19 日 11 月 8 日 11 月 25 日	消防署に消防ポンプ自動車 (いすゞ TXG10) を配置する。 日本損害保険協会より火災保険号 (消防ポンプ自動車 ニッサン FH60) 寄贈される。 火災保険号の受納式実施 消防団 15 周年記念式典実施

昭和 47 年	4 月 1 日 6 月 29 日 7 月 5 日	消防職員 13 名採用 消防本部指令車（トヨタ MS60）を配置する。 消防本部に査察車（スバル K64）を配置する。
昭和 48 年	4 月 1 日 5 月 26 日 11 月 26 日	消防職員 4 名採用 消防本部の広報車（トヨタ MS60）を更新する。 北茨城市消防署出張所が開所する。 消防ポンプ車 1 台を配置する。
昭和 49 年	3 月 12 日 5 月 25 日 7 月 1 日 9 月 1 日	6 代消防団長に 根本 仁 就任 消防署の救急自動車（トヨタ RH-18V 型）を更新する。 消防職員 1 名採用 2 代消防署長に 大友 利夫 就任 3 代消防長事務取扱に北茨城市長 豊田 実 就任
昭和 50 年	2 月 27 日 4 月 18 日 6 月 9 日	関彰商事株式会社より救急自動車（日産 GC240）寄贈される。 4 代消防長事務取扱に北茨城市助役 松崎 元廣 就任 5 代消防長事務取扱に北茨城市長 柴田 章 就任
昭和 51 年	4 月 1 日	消防職員 7 名採用
昭和 52 年	4 月 1 日 12 月 27 日	消防職員 3 名採用 査察広報車（トヨタ H. KR10V）を更新する。
昭和 53 年	1 月 1 日 3 月 7 日 3 月 30 日 4 月 1 日 5 月 22 日 10 月 22 日	北茨城市消防署出張所 救急業務開始 消防庁長官より竿頭授を授与する。 7 代消防団長に 安島 健 就任 消防職員 8 名採用 連絡車（トヨタ H. TE30V）北茨城市危険物安全協会より寄贈される。 自治消防 30 周年記念、消防署開設 10 周年記念式典実施
昭和 54 年	3 月 26 日 4 月 1 日 9 月 28 日	消防署に化学車（日野 KR325 型）を配置する。 消防職員 4 名採用 消防相互応援協定を埴町と締結する。
昭和 55 年	12 月 22 日	消防署出張所に消防ポンプ自動車（いすゞ SCR320）を配置する。
昭和 56 年	4 月 1 日 9 月 1 日	消防職員 2 名採用 広報車（北星号・日産 L. VHC122）北星会より寄贈される。
昭和 57 年	3 月 23 日 4 月 1 日 6 月 18 日	消防緊急通信指令装置 NEC（FD301E 型）稼働 6 代消防長に 大友 利夫 就任 指令車（トヨタ L-TX67）を更新する。

昭和 58 年	3 月 2 日 3 月 18 日 7 月 1 日 11 月 1 日	消防庁長官より表彰旗授与される。(消防本部及び消防団) 消防署に救急自動車(日産 L-FHGE23)を配置する。 出張所が北部分署に改名される。 3 代消防署長に 菊池 淳一 就任 救急自動車(トヨタ L-YH71VB) 日本自動車工業会より寄贈される。
昭和 59 年	3 月 6 日	消防署に消防ポンプ自動車(いすゞ K-SDR320FW)を配置する。
昭和 60 年	2 月 5 日 3 月 1 日 4 月 1 日	消防相互応援協定を高萩市・十王町消防事務組合と締結する。 茨城県防災行政無線電話稼働 消防職員 4 名採用
昭和 61 年	4 月 1 日 6 月 25 日	消防相互応援協定をいわき市消防本部及びいわき市消防団と締結する。 北部分署の査察広報車(トヨタ KA67V)を更新する。
昭和 62 年	2 月 1 日 4 月 1 日 12 月 19 日	7 代消防長事務取扱に北茨城市長 松崎 龍夫 就任 4 代消防署長に 新保 榮 就任 消防署に消防ポンプ自動車(三菱 P-NKR57E2.4WD)を配置する。
昭和 63 年	3 月 24 日 4 月 1 日 7 月 27 日	常磐自動車道日立～いわき中央間開通(全線開通) 8 代消防長に 菊池 淳一 就任 消防職員 6 名採用 消防署に日本損害保険協会より火災保険号(水槽車 日野 P-FD172BA) 寄贈される。
平成元年	2 月 16 日 4 月 1 日 7 月 1 日 7 月 14 日 9 月 25 日	北部分署に消防ポンプ自動車(いすゞ P-NKS58GN)を配置する。 消防職員 4 名採用 消防本部に危険物号(ニッサン E-B12) 危険物安全協会より寄贈される。 消防本部に指令車(トヨタ L-GS136V)を配置する。 消防本部庁舎増築工事完成
平成 2 年	4 月 1 日 7 月 31 日	消防職員 4 名採用 消防署に連絡車(いすゞ V-WFR62FV 改)を配置する。
平成 3 年	4 月 1 日 10 月 30 日 11 月 5 日	消防職員 1 名採用 5 代消防署長に 渡辺 博 就任 消防本部に査察車(三菱 V-U41V)を配置する。 消防本部に受変電設備設置
平成 4 年	1 月 20 日 4 月 1 日 11 月 5 日 11 月 30 日	消防署にはしご付消防自動車(いすゞ U-CVR70K) 24m 級を配置する。 消防職員 1 名採用 8 代消防団長に 松崎 誠次 就任 茨城県知事より優良消防機関表彰を授与される。(消防本部) 消防本部に先導車(トヨタ T-YX76V 改)を配置する。

平成5年	4月1日 11月5日 11月10日 11月26日	消防職員1名採用 消防本部に北星号（ホンダ E-07A）北星会より寄贈される。 消防署に救助工作車（いすゞ U-FRS32FBV）を配置する。 救急車に自動車電話・心電図伝送装置整備する。
平成6年	4月1日 7月22日 12月6日	9代消防長事務取扱に北茨城市長 豊田 稔 就任 6代消防署長に 新保 榮 就任 消防職員5名採用 消防本部に連絡車（ダイハツ E-G203S）を配置する。 消防本部に水防車（トヨタ U-BU67D）を配置する。
平成7年	2月28日 3月6日 4月1日 7月1日 12月1日	北部分署の救急自動車（トヨタ TS-R2H133S）を更新する。 10代消防長事務取扱に北茨城市助役 岡部 良一 就任 消防職員5名採用 11代消防長事務取扱に北茨城市長 村田 省吾 就任 消防相互応援協定をいわき市と締結する。
平成8年	3月12日 4月1日	消防署に高規格救急自動車（トヨタ GB-UZH138S）を配置する。 12代消防長に 渡辺 博 就任 消防職員3名採用
平成9年	4月1日 11月27日	13代消防長に 新保 榮 就任 7代消防署長に 篠原 勝海 就任 北部分署の査察広報車（ホンダ R-EY7）を更新する。
平成10年	3月6日 8月30日	消防本部に（財）日本消防協会より指揮広報車（ニッサン E-EU14）寄贈される。 平成10年度茨城県・北茨城市総合防災訓練 台風4号の接近による大雨及び茨城県災害対策本部設置に伴い中止となる。
平成11年	3月19日 10月25日	消防署の化学車（三菱 KC-FK623GY 改）を更新する。 消防本部に（財）日本宝くじ協会より防災教室車寄贈される。
平成12年	4月1日	14代消防長事務取扱に北茨城市長 村田 省吾 就任
平成13年	2月1日 4月1日	北部分署の高規格救急自動車（トヨタ GE-VCH38C）を更新する。 消防緊急通信指令装置、富士通ゼネラル（I型）稼働
平成14年	3月1日 4月1日	消防署に災害対応消防ポンプ自動車（CD-I型）を配置する。 15代消防長に 鈴木 義則 就任 8代消防署長に 仲田 寛之 就任 消防職員2名採用
平成15年	2月27日	北部分署災害対応特殊水槽付消防ポンプ自動車 I-B型（三菱 KK-FK61HGY）を配置する。
平成16年	2月13日 4月1日	消防署に広報車（トヨタ UA-ACR40W）を配置する。 消防職員3名採用
平成17年	2月2日 4月1日	消防署の高規格救急自動車（トヨタ UA-ACR40W）を更新する。 16代消防長に 根本 晴嘉 就任

平成 18 年	3 月 28 日 4 月 1 日	消防署に水槽付消防ポンプ自動車 I - B 型(日野 ADG - GD7JGWA 改)を配置する。 17 代消防長に 仲田 寛之 就任 9 代消防署長に 渡邊 義久 就任
平成 19 年	4 月 1 日	18 代消防長に 青木 久 就任 消防職員 3 名採用
平成 20 年	3 月 6 日 4 月 1 日 10 月 1 日	消防本部の先導車(ニッサン DBF - VY12)を更新する。 10 代消防署長に 芳賀 昭一 就任 9 代消防団長に 飛田 和義 就任 消防職員 2 名採用 事務職員 2 名市役所から消防本部に出向(職員 88 名) 消防団に本部分団(女性)が設置される。
平成 21 年	4 月 1 日 10 月 16 日	19 代消防長に 高星 輝明 就任 11 代消防署長に 沼田 順一 就任 消防署に災害対応特殊救急自動車(トヨタ CBF - TRH226S)を配置する。
平成 22 年	4 月 1 日 8 月 29 日	20 代消防長に 澤田 清 就任 12 代消防署長に 丹 一男 就任 消防職員 4 名採用(職員 83 名) 平成 22 年茨城県・北茨城市総合防災訓練
平成 23 年	3 月 11 日 4 月 1 日 10 月 19 日 11 月 9 日	東日本大震災(北茨城市 死者 5 名・行方不明者 1 名) 消防職員 4 名採用(職員 80 名) 第 20 回全国女性消防操法大会出場(横浜市) 「消防職団員への感謝の集い」(東日本大震災関係)において総務大臣表彰受賞(消防本部・消防団)
平成 24 年	4 月 1 日 9 月 10 日	13 代消防署長に 丸山 保彦 就任 消防職員 6 名採用(職員 81 名) 防災功労者内閣総理大臣表彰受賞(消防本部・消防団)
平成 25 年	4 月 1 日	14 代消防署長に 佐藤 仁一 就任 消防職員 4 名採用(職員 83 名) 消防署に CAFS 装置付消防ポンプ自動車 CD - I 型(日野 TKG - XZU685M)を配置する。
平成 26 年	4 月 1 日 12 月 11 日	消防職員 3 名採用(職員 82 名) 消防署に救助工作車(日野 SDJ - GX7JGAA 改)を更新する。
平成 27 年	4 月 1 日	21 代消防長に 石山 雄二 就任 消防職員 1 名採用(職員 81 名)

平成 28 年	<p>1 月 8 日</p> <p>2 月 18 日</p> <p>2 月 20 日</p> <p>2 月 23 日</p> <p>4 月 1 日</p> <p>10 月 13 日</p>	<p>消防署の高規格救急自動車（トヨタ CBF-TRH226S）を更新する。</p> <p>消防署に指揮隊車（トヨタ LDF-KDH206K）を配置する。</p> <p>北茨城市消防本部庁舎竣工式</p> <p>北茨城市消防本部・消防署（北部分署と統合）が移転する。 通信指令業務を「いばらき消防指令センター」に移行する。 （同時にデジタル無線へ移行）</p> <p>22 代消防長に 小山 茂 就任 10 代消防団長に 小野 國光 就任 消防職員 3 名採用（職員 80 名） ラピッドカーの運用が開始される。（日立市・高萩市・北茨城市）</p> <p>消防署の高規格救急自動車（トヨタ CBF-TRH226S）を更新する。</p>
平成 29 年	4 月 1 日	消防職員 4 名採用（職員 82 名）
平成 30 年	4 月 1 日	<p>消防職員 5 名採用（職員 83 名）</p> <p>23 代消防長に 滑川 昇 就任</p> <p>消防本部に火災調査車（日産 LDF-VW6E26）を配置</p>
平成 31 年	4 月 1 日	消防職員 3 名採用（職員 83 名）